

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	雑報
Author(s)	
Citation	龍南會雜誌, 171: 122-124
Issue date	1919-06-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6595
Right	

雜報

大正七年度龍南會決算計算書

收入ノ部

通常會員會費	二五五〇〇〇
新入會員入會金	二八七〇〇〇
名譽會員會費	六六七五五〇
預金利息	三一三一〇
寄付金	一五、〇〇〇
前年度繰越金	一二一八二〇
合計	三六七二六八〇

支出ノ部

端艇建造積立金	三三五、〇〇〇
基本積立金	一一、〇〇〇
各部選手遠征旅費	三五九、一五〇
師範謝禮	八二、三三〇
演說部	八二、〇〇〇
雜誌部	五五二、〇〇〇
劍道部	一〇八、五七〇
柔道部	一三三、〇〇〇
弓術部	一一九、一七〇
野球部	一八八、三〇〇

佛教青年會

四五名

四月廿五、廿六兩日釋尊降誕紀念講演會を。佛教大學講師宇野圓空氏を聘して、本校、會館、公會堂に開催す。

五月二十五日數年來の宇佐美教授の大乗起信論義記講義完結し納會を催す。

花陵會

五高基、督教青年會として活動せる同會は廿餘年前

の創立にして現在會員凡六十名、毎月例会を開く。最近五月十日夜豫餞演說會をメリダスト教會にて開く。辯士は福田眞宗文生安田京雄福島鐵雄松尾喜代司梶原通好の諸君。同廿四日會館にて總會並に豫餞會を開き全夕萬日山に夕陽會を催す、後者は同會創立紀念の祈禱會也。年中行事としては他に學年始の、新入生歡迎會、十月卅一日の會館創立紀念祭等あり。

庭球部	一五二、〇七〇
端艇部	三九一、一二〇
水泳部	一一七、七五〇
無所屬	六四七、二八〇
豫備金	四七、〇三〇
會計事務取扱費	一三、七三〇
整年度へ繰越金	三三四、一八〇
合計	三、六七二、六八〇

端艇競漕會

四月の八日に授業が開かれる、そうして各人の心には來るべき端艇競漕の期待に云ひ知れぬ喜悅の情が溢れる。櫻が散り果て、榮種盛りの花曇り例によつて授業の開始されてからの第一日曜十三日に競漕會が開かれた。

龍南生活の標徴とも云ふべき今日此の日に誰か胸の高鳴らぬものがあらう、江津湖畔一帯に白の吹流しが靡く白旗青旗を船の上に振る、赤旗が飄へる、見物の船は湖上に連り、岸に群がつて競漕の一回一回に闕の聲を上げて白よ、青よ、赤勝てと叫ぶ。クラスレースは十時半より四時過ぎに及ぶタイム記録次の如くである。

回	タイム	クラス	舵手	整調	三番	二番	軸手
1	四分四二秒	三、一(赤)	大浦	膳所	中山	竹井	山田
2	四分四九秒	二、一乙丙(白)	松本	北村	深堀	橋本	古見
3	四分三六秒	三、二(赤)	瀬川	太田	西	村上	瀬戸
4	四分五六秒	一、二、甲二(青)	大儀田	田中	山田	宮崎	小濱

5	四分二九秒	二、二、甲一(白)	武末	吉岡	徳富	山下	池田
6	四分三三秒	二、二、乙丙(白)	野田	林	橋本	平泉	宇井
7	四分四八秒	三、三(赤)	渡邊	尾上	三上	福島	中田
11	四分三七秒	二、三、甲二(白)	内藤	秀島	矢野	山田	香春
第八回	は第二選手五分間競漕タイム五分三秒、白勝						
第十回	は第一選手五分間競漕タイム五分五秒、白勝						
第十四回	職員來賓競漕四分五十九秒、共益社勝						

青年會競漕

回	町	村	タイム	舵手	整調	三番	二番	軸手
9	砂取町	(白)	四分二九秒	建川	貞喜	善八	谷口	上崎
12	廣木村	(赤)	四分一十秒	川元	建川	久三	川上	辰馬
13	下江津村	(白)	四分十三秒	上野	島本	園田	中村	中村
				範男	初次	茂	道生	與次郎

これより選手競漕に移る以前よりボツリ／＼水糸を垂れる然し龍南健兒は今や熱狂の極度に達して各部選手の應援に熱血湧かせてたける。

五時前各部第二選手一部第一コース三部第二コース二部第三コースの順でボールに着く五時號砲によりスタートを切る、二部(白)最初より最後まで優勢遂ひに四分十一秒にて大勝した。三部第一選手優勝旗を返へす、今や各部は最後の優勝旗戦なれば痛烈な野次應援をなす、雨は春りに飛沫の如くに降る。

五時廿四分第一選手は第三部(赤)一コース、第一部(青)第二コー

ス第二部(白)第三コースの順でスタートを切る、二部、三部、一部、の順で進む廻航の處にて赤第一白第二青となつて来る。此時三部のピッチ非常に早く或は途中に力の盡きはせぬかとも思はれたが練習のよかつたのか益々ピッチ速く白の力漕美事に追ひ越さんとしたがやはり赤優勢にて四分七秒半艇身の差で復三部の優勝旗を取るゝことなつた。

黄昏の中小雨に濡れながら無言のまゝ、悲嘆する白と青の選手を載せた船が二艘幾つかの船に圍まれて歸つて行く、こちらでは選手圍んで赤の旗を振りながら凱歌を舉げる嗚呼會は已に終へたのだ三部の勝は確しに練習の結果だ終りに各部第一第二選手の姓を記す、

第二選手

第一部(青) 槻 爲基 阿部 壽 河野正直 井上禎三 本山貫一
第二部(白) 吉田太郎 大倉三郎 大内元雄 仙波光三 吉谷慶重
第三部(赤) 高橋 進 田坂靜哉 内山保夫 石松 榮 佐伯仁壽

第一選手

第一部(青) 今里久香 服部辰藏 竹村茂孝 古玉次郎 山岸喬三郎
第二部(白) 武田 彰 朝川虎彦 藤田繁一 景山信義 金子重恵
第三部(赤) 下尾彌太郎 上杉哲郎 四宮 進 吉田定男 伊東一生

東宮御成年式

皇太子裕仁親王殿下滿十八歳の御成年に達せられ、五月七日御成年式を舉行せらる、本校に於ても同午前九時職員生徒一同濟美館に參集御眞影開扉國歌拜禮杉山教授の奉祝閉扉の順序を以て遙に奉祝の意を表し奉る、四年に渉る歐洲の戦塵にさまりてパリの講和會議

に於て我亦難局ありと雖も皇基羣々皇運隆なる我國君民一致和合して泰平の裡聖德を頌し實齡限り無からんことを祈り奉る

龍南會役員會議

去る五月二十八日土曜午後零時半より端邦館に於て龍南會役員會(會長副會長部長並に各部委員各組長等より成る)開かれ左の二案の協議あり。出席者四十一名。

(一)龍南會委員選舉制に付ての規則改正は從來弊害を免れざりし二重選舉を廢して普通選舉とするの案を多數にて可決。其の施行細則の議定は次會に譲る。

(二)運動會端艇競漕會選手選出區案は討議の末、文科、理科(大學豫科に在りては第一部、第二部及第三部)の二團となる原案、並に現在の大學豫科の存する間は新學制の下に入學する者と從來の者とを區分して選手競走を二種とし後者は従前通り三團の選出區とする修正案、各採決の結果共に十八票なりしが、會長の指令に由り原案可決。

寄贈雜誌

無盡燈 第二十四卷第五號 眞宗大谷大學
千葉醫專雜誌 第百十二號 千葉醫專
校友會雜誌 第二十四號 八高